

会 議 録 (概要)

会議の名称	理科教育センター 第1回運営会議	
開催日時	令和6年4月15日(月) 15時30分開会 16時45分閉会	
場 所	佐渡市総合体育館 会議室	
議 題	(1) 令和5年度実施事業報告 ① 研修事業 ② 児童生徒・一般対象事業 ③ 研究事業 ④ 奉仕事業 (2) 令和6年度の運営について(案) ① 運営の基本方針(案) ② 運営の重点(案) ③ 事業の内容(案) ④ 予算(案)	
会議の公開・非公開 (非公開とした場合は、その理由)	公開	
出席者	理科教育センター所長 濱崎 賢一 理科教育センター次長 長尾 謙治 佐渡市小学校教育研究会長 藤井 衛 佐渡市中学校教育研究会長 本間 学 佐渡市小学校教育研究会 理科部長 斎藤 紗織 佐渡市中学校教育研究会 理科部長 村田 健輔 佐渡市教育委員会学校教育課長 渡邊 一哉 (欠席) 佐渡市教育委員会教育指導主事 村川 健太郎 (欠席) 学識経験者 荒貴 源一 事務局 理科教育センター教育指導主事 古塩 正明 理科教育センター協力員 大坂 和広 (進行) 理科教育センター事務職員 永瀬 淳	
会議資料	添付のとおり	
傍聴人の数	0人	
備 考		

会議の概要（発言の要旨）	
発言者	議題・発言・結果等
所 長	<p>開会あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 当理科センターの活動に対し、理科教育の専門的立場からの支援・協力に感謝する。 ○ 先週、新潟県地区理セン連絡協議会代表者会議をオンラインで行い、県内各地区の事業計画を情報共有したところである。 ○ 佐渡地区の事業についても昨年度第2回運営会議は書面審議となったが、令和5年度を振り返りよりニーズに応じた計画になっている。 ○ 学校現場の先生方に役立つ研修会となり、魅力ある活動となるよう皆さまからの忌憚のない意見をいただきたい。
事務局	<p>(1) 令和5年度実施事業報告〔資料・スライドに基づき説明〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 研修事業 ② 児童生徒・一般対象事業 ③ 研究事業 ④ 奉仕事業
運営委員 1	<p>【質疑・応答】</p> <p>・<u>給食混入異物同定調査について</u></p> <p>同定調査を数多く対応しているが、どのようなものが対象か。本来保健所の業務であり、理科教育センターが実施する必要はないのでは。</p> <p>→ 持ち込まれた異物は、①骨などの破片、②昆虫、③金属・プラスチックなど不明なもの、と多岐に渡り危険かどうかの判断が難しい。簡易な分析しかできず、本来、有償となるが理化学センターなどに持ち込むのがよいのでは。（事務局）</p> <p>→ 異物の内容によって保健所の対応となりうる事案もあると思うが、明確な区分は難しい。検討させてもらいたい。（事務局）</p>
運営委員 2	<p>過去協力員として3年業務を行った際、所内で協議したところ、地域の科学的教育の振興という面もあり支援して欲しいとのことであった。できる範囲で実施したが、遠方からは持ち込むのが難しく、地域差があるのも問題と思う。</p>
運営委員 1	<p>・<u>科学作品の標本作成技術について</u></p> <p>昨年の科学作品展を参観して、受賞者が増えるなど全体にレベルが上がっていると感じた。ただし、標本づくりの技術レベルが下がっていて、教育者・保護者の指導が行き届いていないためと思う。</p>

<p>運営委員 2</p>	<p>→ 標本づくりのテキストなどを Teams で公開した。今後ホームページで掲載するなどを行い技術普及に努めたい。(事務局)</p> <p>標本を扱える教員と扱えない教員がいるが、県レベルの標本づくりの技術をもつ保護者もいる。人材バンク等を作成して必要な場合に連絡できるようにすれば技術も上がるのでは。</p> <p>→ 標本同定を依頼している専門家を通じ検討していきたい。(事務局)</p>
<p>事務局</p>	<p>(2) 令和 6 年度の運営について(案) [資料・スライドに基づき説明]</p> <p>① 運営の基本方針(案)</p> <p>② 運営の重点(案)</p> <p>③ 事業の内容(案)</p> <p>④ 予算(案)</p>
<p>運営委員 3</p>	<p>【質疑・応答】</p> <p><u>・研究協力員の選定基準について</u></p> <p>業務多忙な中、研究協力員を設定している。理科専科教員が協力員になっていないのは何故か。選考基準があれば教えて欲しい。</p> <p>→ 特に選考基準の定めはない。公開授業実施の関係上、自身で理科を担当されている先生を対象としているが、経験年数などは考慮していない。今年度の場合、専科の先生にも依頼したが、事業協力員・研究協力員に長く携わった経過や、本人の意向もあった。今後さらに理科専科の先生の協力をお願いしたいと思っている。(事務局)</p>
<p>運営委員 1</p>	<p><u>・1月1日発生地震について</u></p> <p>今回の能登半島地震を教材にできないか。子どもにアンケートを取るなどで防災教育にもなる。過去にあった新潟地震発生時の記憶が蘇ってきた。実際の経験者が話す・書き残すというのが大切。昭和 39 年 6 月 16 日の各学校の日誌を調べたが、特記すべきことは書いてなかった。県教育センターが昭和大橋付近にあった時代で 16 ミリフィルム「新潟地震」には周辺の様子が映っていた。理セン・佐小研・佐中研の指導内容に留まらず防災にも関係しており、改めてまとめておくには今がチャンスと思う。</p> <p>→運営委員からアンケートに関わる資料もいただいている。いろんな所にPRしていきたい。(事務局)</p>
<p>運営委員 2</p>	<p><u>・ICT研修と佐小研情報部の事業との関連について</u></p> <p>理センのICT研修と佐小研情報部の事業内容が一部重複しており職場内の受講選択で若干の混乱があった。情報部が昨年末にICTの使用方法をまとめており、校長会で共有されている。両者を併用するとより効果的と思うので検討して欲しい。(要望)</p>

<p>運営委員 2</p>	<p>・<u>科学作品展の「佐渡学」の位置けについて</u></p> <p>科学祭りの際の「佐渡学」の基準が毎年校内で問題になる。STEAM教育が進められる中でアート色がどこまで入って良いのか。校内での選定基準を示してもらえると助かる。「佐渡学部門」の立ち上げ時は、出品数の減少に対する対応やジオパーク・ジアスが進められた時期でもあった。佐渡以外で工作も科学作品もともに受け入れている地区もある。フィールドのお散歩マップ等科学以前の探検的なものも多く、理科に該当しないとの判断で科学作品展に出品できないものが増えた。また、鳥の模型などでも理科的な視点が十分でないため、佐渡学に入れていいか迷うものもある。</p> <p>→ 判断は理科センターの悩みでもある。各学校で判断に迷う場合は理科センターに尋ねて欲しい。神社仏閣・鬼太鼓を調べるなど社会的・歴史的・文化的な調べ学習など、理科的でないものの受け皿があると良いと思う。(事務局)</p>
<p>運営委員 1</p> <p>運営委員 1</p> <p>運営委員 2</p> <p>運営委員 1</p>	<p>・<u>予算執行について</u></p> <p>昨年度の運営会議で物価高騰で早めの予算執行が望まれると指摘したが、令和5年度にこまったことはなかったか。</p> <p>→大きな問題はなかった。令和5年度の予算執行上では、Wifiのアクセスポイントの設置と薬品の廃棄処分ができて助かった。(事務局)</p> <p>理セン事務室に廃棄薬品が保管されている。昭和61年度に給食への硫酸銅の混入事件があり、全県の理科センター職員が県教育センターで廃棄処理の研修を受けた経過がある。当時、各校から廃棄薬品が理センに集められたものの、9町村の管轄区域で予算要望したが認められなかった。廃棄の必要な薬品は法律に基づいて保管されているが、薬品処理を進めて欲しい。</p> <p>→令和5年度に佐渡理セン内の今まで処分できなかった薬品を50万円かけて処分した。必要であれば随時処分していきたい。(事務局)</p> <p>私が協力員で担当していた3年間には予算化されなかった。現在、担当している3校だけでも理科室に不要薬品がある。処分を進め安全な学校にして欲しい。</p> <p>→承知したが、各校にある薬品の処分は理センの予算とはまた別の対応になる。(事務局)</p> <p>薬品とは別に、石綿金網(アスベスト)や体温計(水銀)の処分の問題もあると思うので留意して欲しい。</p>

<p>運営委員 2</p>	<p>・<u>理セン理科室のエアコン導入について</u></p> <p>今年度、小学校の理科室には全てエアコンが入る予定になっている。研修会場である理科教育センターの理科室にもエアコンを入れる予算をつけて欲しい。</p> <p>→現在、佐和田中学校は大規模改修をする事務を進めている。その事業との関連があるが、予算上は別措置が必要になる。(事務局)</p>
<p>運営委員 2</p>	<p>・<u>自由研究のテーマについて</u></p> <p>自由研究をガイドする授業を行っているが、テーマが見つけれないことがある。理センで5つくらい推奨するテーマを提案してもらえないか。テーマを提示することで、研究を進められる児童・生徒がいる。</p> <p>→ 科学研究のテーマということであれば考えてみたい。特に、生物・地学的な分野の発表が少ないと感じおり、佐渡では素材の点で有利な面もある。Teams に載せるなど教職員に周知するよう考えたい。(事務局)</p>
<p>運営委員 1</p>	<p>・<u>運営会議の代理出席について</u></p> <p>2月の運営会議が流会となったが、都合がつかず欠席者が多かったためと聞いている。条例を変えるのは難しいが、運用によって代理出席でも会議が成り立つようにしてもらいたい。自分たち自身の研修にもなるし、お互い協議することで良い意見もでると思う。(要望)</p>
<p>運営委員 2</p>	<p>・<u>オンライン研修会の開催について</u></p> <p>オンラインの研修会を検討して欲しい。午後3時半以降の研修でも移動に時間がかかって参加できないこともある。指導基礎研修会など実際に実験できなくても話を聞くだけでもイメージできる場合もある。</p> <p>→直接来る人が減ってしまうという懸念もある。検討し、できるところは計画してみたい。(事務局)</p>
<p>次 長</p>	<p><u>閉会あいさつ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 理科センター設置の意味を考えると社会での理科的なものの見方・考え方が大事で、特に理センの研修事業が重要な位置にある。 ○ 実験の実施や単元の構成、授業の進め方などを検討することが子ども達に反映されるものと考え。 ○ 研修の形態は授業公開に限らず拡張が可能で、限られた予算や人員配置の中で佐渡の子供たちのために役立てればよいだろう。 ○ 理科センターが持続可能な形で何を大事にしていくかを考えていく必要がある。